

平成 29 年度

一般財団法人

新潟県建設技術センター研究助成事業

活動報告書

天王川の自然再生にともなう

水辺の維持管理手法に関する検討

新潟県佐渡地域振興局地域整備部

天王川の自然再生にともなう水辺の維持管理手法に関する検討報告

1. 本活動の背景

新潟県佐渡地域振興局地域整備部では、トキの野生復帰を川づくりの面から支援するため、二級河川天王川の自然再生に取り組んでおり、里地・里山で失われつつある生物の多様化を図ることでトキの餌場を増やすほか、地域の子どもの自然学習の場などとしても位置づけていくこととしている。

また、この取組では、かつて地域住民が農作業など日々の暮らしのなかで川をなだめつつ、使いやすく変えていくことで保たれていた“流域の人々と川との密度の濃い関わり”を復活させ、活気のある水辺の風景を甦らすことも目指している。

地域住民との話し合いを元に自然再生された新たな水辺が、この地域にとっての『宝』となり、さらにその価値を磨き続けていくためには、従来の行政主体の枠組みから、「地域住民」－「企業」－「県（河川管理者）」とのパートナーシップを基とした新たな枠組みによる水辺への関わりが必要であると考えている。

このようななか、平成 28 年 5 月にパートナーとなってもらえる企業を探すため「自治体総合フェア」に参加し、多くの企業の方々と意見交換したなかで、複数の方々から「CSR[※]を元とした企業とのパートナーシップ構築を目的とするなら、企業や団体における環境分野のCSR実務担当者が多く参加する『エコプロ』に出展して天王川の活動をPRすべきだ」とのアドバイスをいただいたこと。さらに、平成 29 年 8 月に、天王川の自然再生エリア周辺で活動する新たな団体としてトキの水辺づくり協議会が立ち上がったことから、今回、研究助成金を得て同イベントに参加することとなったものである。



自然再生事業箇所（赤枠内が事業用地）



現在の「天王川」



自然再生後の河川（上西郷川：福岡県福津市）

※ CSR (Corporate Social Responsibility)

企業は、企業としての利益を追求するだけでなく、顧客や従業員、地域住民などすべての利害関係者の利益を実現していく「社会的存在」として、事業活動を通じ、自主的に社会に貢献する責任を有する。

2. 活動の目的

自然再生後の新たな水辺を価値あるものにしていくためには、その活動を支える資金的な裏付けとそこで汗を流す人材の確保が必要不可欠である。

そこで、本助成金による活動の目的は次の2つである。

① トキの水辺づくり協議会の活動資金の確保

地域住民や県、市が会員となり、アドバイザーとして環境省、新潟大学、日本野鳥の会などにも加わることで立ち上げた「トキの水辺づくり協議会」の資金面を支えてくれるパートナー探しを行うこと。

② 草刈り等、新たな水辺での活動を担ってくれる人材の確保

人口減少と高齢化、耕作放棄が進む佐渡島において、新たな水辺の維持管理に参加し、地域住民と共に汗をかいてくれるパートナー探しを行うこと。

3. 活動の内容

アジアを代表する環境・エネルギーの総合展示会である『エコプロ 2017 -環境とエネルギーの未来展-』【主催：(一社)産業環境管理協会、(株)日本経済新聞社】にブースを出展し、天王川での取組を紹介・PR活動を実施。

また、ブースの来訪者との意見交換を通じ、企業CSRによる活動費の助成や現場でのボランティア活動の可能性について情報の収集。

さらに、エコプロに参加している企業・団体のブースを訪ね、天王川の活動内容の紹介と協働できないかの意見交換を行った。

『エコプロ 2017 -環境とエネルギーの未来展-』 の概要

■日時：平成 29 年 12 月 7 日(木)～9 日(土) 10:00～17:00

■会場：東京ビッグサイト東 1～5 ホール

■活動：①ブースでの展示及び来訪者へのPR

・天王川自然再生事業の概要説明パネル表示……………写真 1

・CSRによる助成、ボランティアでの参加の呼びかけ…写真 2

②エコプロ 2017 のホームページにおいて当ブースの見どころを紹介
(<https://eco-PRo.biz/exhibitor/info/EP/ja/8660/>) … 7 ページ

③本活動のプレスリリースと佐渡地域振興局ホームページでの紹介
…………… 8、9 ページ

<写真1>



開催日前日のブースの設営

新潟県佐渡地域振興局のブース

※ パネルはH28年度の自治体総合フェア時に作成・使用したものを転用

本活動を通じ、企業・団体の方々との意見交換のなかで訴えた内容は概ね次のとおりで、CSRの理念に「環境」、「ボランティア」、「教育」などを掲げている方々に共感いただけるよう意識して取り組んだ。

- ① 一度絶滅したトキも様々な人達の取組と努力で、現在野生下で298羽まで増えている（H29年10月26日時点）。
↓
- ② 一方で、試験放鳥を始めた頃、トキの野生復帰を市民レベルで下支えしようと頑張ってきた人たちは高齢化し、加えて耕作放棄地も年々増えている。
↓
- ③ このままでは、佐渡の里地・里山の環境はみるみる悪化し、生物の多様性は保てなくなり、トキの餌場環境の悪化も懸念される。
↓
- ④ そこで、トキの野生復帰を支援する意味で河川の自然再生を進め、多様な生物が住める、新たな水辺環境をつくる取組を進めている。
↓
- ⑤ また、新たな水辺は、子供たちの野外学習の場となったり、ボランティアの若者と地域の高齢者との交流の場ともなる。
↓
- ⑥ この新たな水辺の価値を協働の枠組みのなかで高めていくためにCSRでの参加をお願いしたい。

〈写真2〉



企業の方々への説明



環境系独法のブースでは取組の発表をおこなっていた

4. 総括

3日間の開催期間を通じ、会場には160,091名の来場者(主催者発表)があり、当ブースにも、国・自治体関係者、大学関係者、民間企業社員、社団・財団法人関係者、マスコミ関係者、学生など、多様な方々に来訪いただいた。

民間企業としては、大手の金融、製造、小売、IT、出版、建設など、普段であればとても会うことのできない、大企業のCSR部門の責任者などとも直接話ができ、しかも丁寧に意見交換していただけたことはエコプロという場でなければ到底実現できることではなく、大変に有意義な活動となった。

直接話をすると、製紙会社などは、国内の環境面は自社工場周辺に特化し、力をいれているのは海外の環境対策で、天王川のような取組にはまったく興味を示さなかったり、大手小売(スーパー)などは、地域密着の業態からなのか、一生懸命に話を聞いてくれ、天王川の取組にも助成できる可能性が高いとの言葉をいただけたことは大きな収穫であった。



賑わう「エコプロ2017」会場

企業のCSRは元々、「環境」だけでなく、「文化」、「芸術」、「スポーツ」、「教育」、「福祉」など多様化しており、東京オリンピックを控えた現在の日本では、ややスポーツ振興に傾いているものの、世界的な大きな流れとして企業にはESG【E:Environment(環境へ配慮)、S:Society(社会的責任)、G:Governance(企業統治)】が求められており、環境面の社会的責任は持続可能な企業活動に必須項目となり続けることと思う。



エコプロに出展した企業から入手したCSRレポートの一部

今回意見交換した大手の信託銀行の担当者からは、各企業からCSR資金を信託され、その資金をより良い対象に助成するため多様なメニューを考えているという話を聞き、後日、助成メニューのリストをいただくことができた。

企業側も前述のESGが長期的な株価（企業価値）に反映される時代になり、より良いCSRの対象を求めていることが理解できたが、天王川の取組は、中国の砂漠化を防ぐ緑化の取組などに比べ規模が小さく、地味である。その分、“トキ”という特別なキーワードを輝かせて見せる工夫や“トキ”以外の「生物多様性」、「環境教育」、「地域づくり」「社会貢献」等、様々なキーワードで共感してくれる企業・団体を見つけていくことが必要である。

また、今回、多くの大学生や専門学校生とも意見交換をする機会に恵まれた。彼らのほとんどは環境系の学部学科で学んでおり、天王川での取組にも興味深そうに様々な質問をしてくれた。トキの水辺づくり協議会では、学生ボランティアも“サテライト会員”として受け入れる予定であるので、こういった場での意見交換が、学生の所属大学や専門学校と提携するきっかけになれば嬉しい。

さらに、首都圏在住の本県、佐渡市出身の方々にも多く来訪していただき、我々のPR活動に賛同いただいた。民間企業で働く本県出身の方からは、「全体的に新潟県はこのようなPR活動が少なく、首都圏にいても存在感が感じられない。民間はあらゆる機会でビジネスチャンスを手握もうと努めるが役所は受け身でチャンスを手握もうという意識が足りない。今後もこのような場でどんどんアピールしてほしい」と評価していただ



環境系の学生への説明

いた。

今回、大手飲料メーカーにおける助成制度の審査員の方にもブースに来訪していただき、話を聞いていただくこともでき、取組の重要性を評価していただくとともに「トキを佐渡だけのものにするのではなく、全国でも見られるようにする取組にしていくような大きな視野が必要だ」とのアドバイスもいただいた。



「豊田市」、「富山市」のブース

5. 成果

今回、様々な業種の方々との意見交換を通じ、企業のCSR活動に対する方向性のようなものが見えてきた。

世界で熾烈な競争をしている大手メーカーなどは日本国内よりも世界的な評価を意識してのCSRに取り組み、大手企業でも地域密着型の業態であれば天王川などの小さな取組でも対象としてくれるチャンスがある。

今回、ブースを出展していた県内企業の担当者の何人かとも意見交換する機会があったが、一様に天王川を取組などへの興味が薄く、関心を引くことができなかつたことは残念であった。新潟県を基盤として企業活動をするうえで、天王川をフィールドとした市民活動を支援するような取組が評価されるようにしていく必要もあると感じた。

今回の「エコプロ 2017」の参加を通じて、環境系の独立行政法人や某大手小売企業の財団から、活動資金などについて支援出来る可能性があるのも、ぜひ企画書を提出してほしいとお話をいただいた。

また、某大手飲料メーカーからは平成 30 年度より助成金をいただける内定をいただくとともに、1つの学校とは、学生ボランティアとして、天王川をフィールドにする前提での連携協議を進めるにいたっている。

最後に、大手の民間企業の多くの方々と自由に意見交換できるこのような機会は、ひとつひとつの企業と日程調整して会議室で交渉するのに比べ、ざっくばらんに立ち話で本音を言い合い、短時間で可能性を探れたり、互いに興味を持っているか、持っていないかが感じられたり、自分は興味がないが、自分の知っている××なら興味を持つかもしれないとかという話が聞け、効率的で密度の濃い機会として極めて貴重な機会であった。



〈図1〉エコプロ 2017 のホームページにおいて当ブースの見どころを紹介

出展者情報

新潟県 佐渡地域振興局



新潟県

小冊番号：3-004



この出展者にお問い合わせ

新潟県佐渡地域振興局では、特別天然記念物「トキ」の野生復帰を水辺づくりの面から支援するため『天王川の自然再生』に取り組んでいます。この取組は、近年増え続けている耕作放棄地を活用した新たな水辺を創造し、多様な生物を育む佐渡島豊かな里地・里山環境を再び作り守っていくというものです。企業の皆さんもCSRの一環で、地域建設や学生ボランティアなどと共にこの新たな「価値づくり」に参加してみませんか!!

エコプロ一般出展

出展内容の分類

生物多様性
行政・自治体・関連団体
環境配慮・エコ活動

企業情報

担当部署	佐渡地域振興部 計画調整課
住所	〒952-1555 新潟県 佐渡市相川二軒目浜町20-1
電話番号	0259-74-4040
e-mail	ngt111140@pref.niigata.lg.jp
URL	http://www.pref.niigata.lg.jp/
英文社名	NIIGATA PREFECTURE SADO REGIONAL PROMOTION BUREAU

佐渡島における自然再生の取組にCSRの一環で参加しませんか!!

天王川自然再生の計画



自然再生事業は、延長250m、幅100mのエリアにおいて、湿地(トキの餌場)や池(水質改善用エットランド)を整備します。

天王川の航空写真(上流から下流を望む)



自然再生事業を実施するエリアは、加茂湖から約2km上流で、トキが多く分布する佐渡市新穂地区に位置しています。


事業内容

新潟県佐渡地域振興局は、これまで様々なトキの野生復帰を支援してきた団体と「トキの水辺づくり協議会」を設立(2017年8月22日)し、協賛者、新潟大学及び日本野鳥の会佐渡支部から専門的知見をいただき、佐渡県内外のボランティアを積極的に受け入れて、以下の活動の取組に着手しました。

- ①トキの野生復帰を実現する水辺の整備と適切な維持管理
- ②トキの生息環境に関する調査・研究・環境教育
- ③トキの生息環境を維持していくための社会実験と地域づくり
- ④トキの野生復帰や生物多様性に関する研究活動

- 7 -

〈図2-1〉本活動のプレスリリース

新潟県報道資料	 新潟県
平成 29 年 12 月 5 日 佐 渡 地 域 振 興 局	
「エコプロ2017」で “天王川の自然再生の取組”をPRします。	
佐渡地域振興局では、12月7日（木）から9日（土）に東京ビッグサイトで開催される「エコプロ 2017」でブースを設置し、天王川の自然再生の取組をPRするとともに、将来的な水辺の維持管理を「地域住民」-「企業」-「県（河川管理者）」のパートナーシップの枠組みとするため、来場される企業の方々にCSRによる参加を呼びかけます。	
1 ブースでの展示内容	
○パネル展示	
「天王川自然再生事業の概要」、「CSRによる参加のご案内」 など	
2 「エコプロ 2017」の開催概要	
(1) 日時	
平成 29 年 12 月 7 日 (木) ~ 9 日 (土) 10:00 ~ 17:00	
(2) 会場	
東京ビッグサイト 東展示棟・東3ホール	
(3) 出展者数、来場者数	
705 社・団体、169,118 人 / 3 日間 (昨年実績)	
3 問い合わせ先	
佐渡地域振興局 地域整備部 計画調整課 市橋 (電話 0259-74-4040)	

〈図2-2〉本活動を紹介した佐渡地域振興局ホームページ

【佐渡】『エコプロ2017』で天王川の自然再生の取組をPRしました

2017年12月11日

佐渡地域振興局地域整備部では、12月7日(木)から9日(土)に東京ビッグサイトで開催された『第19回 エコプロ2017』においてブースを出展し、天王川自然再生の取組をPRするとともに、将来的な水辺の維持管理を「地域住民」「企業」「県(河川管理者)」のパートナーシップの枠組みとするため、来場された企業の方々にCSRによる参加を呼びかけました。

当ブースは、3日間で100社を超える企業や学生の皆様に来ていただき、天王川自然再生の取組やパートナーシップによる維持管理の必要性についてご理解いただくことができました。

なお、このPR活動は、一般財団法人新潟県建設技術センターの研究助成事業により行ったものです。

[一般財団法人新潟県建設技術センター 公式ホームページ](#)

[研究助成事業のページ\(同センター公式ホームページ\)](#)



来場者へ説明している様子①



来場者へ説明している様子②

[エコプロ2017 公式ホームページ](#)

